



梅雨が明けた神戸は暑い！ポーポキは、お昼寝のために木陰で涼しいところを上手に見つけます。あなたも良いスポットが見つかるように！



Popoki's Hot News!



ポーポキのピース・ブック3！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、『ポーポキ、元気って、なに色？』がきました！お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、および感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのフェデリコにゃんから届いた平和。

「私は「Federico」と言います。イタリアで結構有名な名前ですが、その名前の意味を知っている人はいないと思います。実は、昔のドイツ語「Frithu」と「Rykya」から合成されたそうです。「Frithu」は「平和」の意味で、「Rykya」は「強い」の意味です。合わせて「平和的な支配者」という意味になります。私が平和的な支配者だと言えるかどうかは分かりませんが、平和的な人だと思っています。毎日、自分の平和をすこしずつ周りの人にわかるようにしています。私にとって、こうやって平和を共有することは、しあわせを広めることにつながります。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



ぼくのFB頁ができました!!! ぜひ観てくださいね！

www.facebook.com/pages/Popoki-Peace-Projectポーポキピースプロジェクト/1384738958444817

いつもご協力、ありがとうございます！

『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』(エピック 2012) はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいです！

*神戸 YMCA でも販売していますよ！ 本については、<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。



イベント報告「ポーポキ、元気って、なに色？～平和と健康について考える～」

かおにゃん

ポーポキ、元気って、なに色の、本をつかっていろいろなことをしています。さいしょに、せつめいをしていました。2 つめにげんきかげんきでないかひもをつかってばしょをおしえました。そしてりゅうもいいました。でもわたしはいえませんでした。でもはずかしいです。3 つめにえをかいてみてへいわかげんきをぐるうぶで、いいます。4 ばんめにかあどをいるじゅんばんにたてにならべておきます。そして、はっぴょうしました。5 ばんめにえを書きました。そのえはまちか、おにわでした。さいごにはなしをしておわりました。たのしいことはずかしいことがあったけどぐるうぶがいたのでましでした。さくしゃにさいくんしてもらったのもできました。

補足 (by はやしにゃん) : 2014 年 6 月 13 日、グランフロント大阪で「ポーポキ、元気って、なに色？～平和と健康について考える～」が開催されました。さとにゃんが講師としてワークショップを 17 名の参加者とともに行いました。



げんきかどうかのひもをつかったワーク



まちのえにかいたざりがに



神戸 YMCA 三宮会館、ありがとう！！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、
当初からいろいろな形で
神戸 YMCA の支援を
受けています。

長年お世話になった三宮会館は
今月いっぱいではなくなります。

ポーポキは
神戸 YMCA の新たな夢へ旅立ちに
共に歩みます。

三宮会館、お世話になりました！
ありがとう！



三宮会館で最後のポー会。みんなで感謝をこめて、一生懸命に描きました。



ポーポキ、アメリカで新しい友だちをつくる

文章 キキ・翻訳 西郷茉莉

*ポーポキの友人であるレベッカにゃんが、カリフォルニアで認知症の人々の元で働くキキさんという女性に彼を紹介しました。キキさんは『ポーポキ、平和って何色？ ポーポキのピース・ブック 1』を患者さんたちと一緒に読んでみることを試みました。以下が彼女の報告です。(ろにゃん)

ヘルスセンターの2人の患者さんにポーポキを読み聞かせるのはとても素敵な時間でした。2人とも記憶することは困難ですが、子どもの頃にねこを飼っていたということを覚えています。彼らの対応を楽しんでいただけたら幸いです。私の想像に反して、文字の小ささや絵は彼らにとって苦ではないようでした。

表紙 彼らは真っ先にポーポキの色とりどりの尻尾に注目しました。それ以上に、ポーポキの名前が気に入り、声に出して言うのが楽しそうでした。

4～5 ページ 彼らはポーポキの目の色の変化に気づきました。異なる色を認識できた時の彼らの顔には飛び切りの笑顔が見られました。

10 ページ 彼らはドスンという音のアイディアが気に入ったようでしたが、それを平和の音と結びつけて考えているようではありませんでした。

11 ページ 彼らはとても楽しそうにもみもみすることやゴロゴロ喉を鳴らすことについて話していました。私たちは一緒に喉をゴロゴロ鳴らしてみました。1人の女性が「ポーポキが安心しきっているとときの音です」という主張に疑問を投げかけました。彼女は本の著者に対し、「なぜ彼女はそれがわかるの？」と問いかけました。しかし、彼女はその後「これは平和の音『かもしれない』」という繰り返し出てくるくだりに納得したようでした。

26 ページ 彼らは風のにおいを嗅ぐ、というイメージが気に入ったようでした。「人はあまり風のにおいを嗅がないけれども、ねこは嗅げるのね。」

27 ページ いのちを粗末にする社会が平和な社会かどうなについて話し合いました。「そう、もし立ち止まって生き物のことを考えなかったら…。もし立ち止まって、自分たちがあまり生き物のことについて考えていないことに気づいたら、しないかもしれない…。高齢者は立ち止まって考える時間がある。」

32-33 ページ 「ひとりでいられることは平和？」「はい、完全に一人きりでないのなら。ポーポキには食べ物を与え、気にかけてくれる人がいる。」平和は、「いけないとわかっているけど、かじってみたいときにかじる？」「もちろん、できます。」

39 ページ みんなで一緒に歌うことについて。「一緒に歌うと笑顔になれる。」平和には音楽や芸術は必要？「はい、それらがあれば平和な気持ちになれます。」

私たちはページを進めていき、何か反応があればそこで止まり、話し合いました。彼らは本に綴られた様々な言葉と絵をとっても楽しんでいました。私は想像力に富む質問に感銘を受けましたが、彼らも同じであったと思います。ページをめくっている間、いつもよりも多くの笑顔がそこにありました。

ポーポキはガザ支援の緊急デモに参加

ろにゃん

7月20日にポーポキと仲間は、神戸で開催されたデモに参加しました。このデモの目的は、イスラエル軍のガザ攻撃・地上侵攻の停止や、イスラエルへの日本の軍事技術協力の停止を呼びかけることです。ポーポキ・ピース・プロジェクトは、パレスチナへのスタディツアーを2度ほど開催し、イスラエル軍が日常的に行使する暴力を目の当たりにしました。しかし、暴力や武力は解決をもたらさないし、解決方法としては有効ではない。私たちは、暴力のない本当の意味での平和を求めて行進をしました。





ポーポキ in フクシマ その3

ろにゃん

5月9日から11日まで、ポーポキと一緒に福島に行って、写真家の森住卓さんの案内の下で原発事故の影響について学ぶことができました。その感想は、数回にわたって紹介させていただいています。今回はシリーズの3回目です。テーマは「除染」にしたいと思います。

福島第一原発事故によって、福島県内外の広範囲な地域が汚染されました。その汚染は、爆発によって飛んできた放射性物質、雨に混ざって降ってきた放射性物質、風によって飛んできた放射性物質などによるもので、放射性物質の成分やそれらによる汚染のしかたや線量が多様です。また、汚染された地域には、山、谷、森などの大自然も、畑や田んぼといった農業用地も、民家、公園、病院、役場など、人間が生活する町もあります。帰還困難区域には、人間がいなくなり、何もかもが事故当時のままになっているゴーストタウンのような町もあります。

汚染されても「安全」に暮らすため、あるいは再度居住できるようにするために、現在「除染」活動が行われています。日本政府によると、「除染」には、「取り除く」、「遮る」、「遠ざける」という三つの方法がありますが、私が福島で目の当りにしたのは、「取り除く」除染活動です。それは、「放射性物質が付着した表土の削り取り、枝葉や落ち葉の除去、建物表面の洗浄等により、放射性物質を生活圏から取り除きます。」

(http://josen.env.go.jp/about/method_necessity/decontamination.html 2014. 7. 22)

全体量が多くてしかも保管する場所が少ないので、除染された土の多くは、取れたところでとりあえず保管することになっています。福島に行くと、あちらこちらに見かけます。黒いビニールに包まれている大きな丸い物体。最初はなんだか、ちょっと怖いと思いました。けれど、だんだんその風景に慣れます。それこそが怖いことかもしれませんね。



写真(左)は、最初に出会った除染土。場所は、仮設住宅の近くのりんご農園の道沿い。その時は、次のように考えました。「口にするものの近くにこんなものを置いても良いかしら???」話には、『除染してもそれほど変わらない』とか『すべてを除染できないからね』とか、否定的な声が多かった。確かに、家や木などを残す限り、放射能も残るでしょうし、雨が降ったり風が吹いたりす

ると再び汚染されることもあるでしょう。こんなものを見ながら生活するのはいやだな。とくに原発から非難した先に…。」

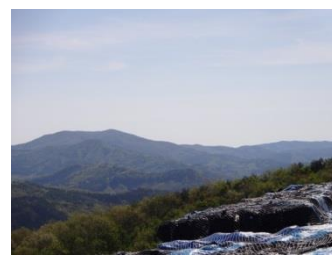
津波被害があった南相馬市の海の方に行ってみました。そこにもありました。(右)



そして、浪江町に向かっているときも、車の窓から見えた景色に黒い堤の列が永遠と続いていました。(下)



飯館村では、ごみ処理場内で保管する場所が山の上に作られていました。山の上！？！私は素人ですが、山の上よりは、風にさらされない低いところが良いのでは、と思いました。



宿泊先は福島市内。散歩してみたら、まちの真ん中に写真の看板を発見しました(右)。福島市は「安全」だと思っていました。汚染されていないとされており、避難先にもなっています。そこで単純な疑問。「安全だったら、なぜ除染しなければならないの？しかも今年の9月30日まで？」



現在、あちらこちらで除染活動を続けつつ、除染された町に住民を呼び戻そうとしている自治体があります。住民は戻りたい気持ちと不安、経済的な面や健康面、生活のスタイル、多くの人が悩んでいると思います。あなただったら、どうしますか？地震が活発な日本には、54基の原発があります。100キロ圏内といえば、沖縄を除けば「安全」なところはありません。この問題は、福島の問題だけではないね。





* ポーポキのインタビュー *

岩手県釜石市小白浜仮設住宅の住民の方々
はやしにゃん

2014年3月14日から19日にかけて、神戸大学東北ボランティアバスで岩手県大槌町、釜石市に行ってきました。釜石市唐丹小白浜（とうにこじらはま）仮設は49戸の仮設住宅です。ほとんどの住民がおなじ集落の漁業関係者で、住民のまとまりのよい仮設住宅です。多くの仮設住宅の談話室がそうですが、ここでも談話室は女性たちの交流の場となっています。ここに入りにくい男性たちは、敷地の入口近くに設置されたプレハブの「洗濯小屋」でたばこを吸いながら語り合います。もっともこの「小屋」は禁煙なのですが、そんなことは集まる男性陣にとってはお構いなしです。このような男たちの集まる場は、漁師たちの「番屋」の名残だと言えます。漁業従事者は、漁具の手入れや収納、作業のための小屋として「番屋」を海岸べりに持っています。番屋は漁師たちの語らいの場で、日の出前には集まって、みなでたき火を囲んで出漁に備えたものだといいます。震災後の避難所でも、私はこのような「番屋」的なテント小屋が体育館の入口付近に作られることで、男性陣が避難所の様々な問題に対処しているケースを見てきました。仮設住宅でも、このような番屋的な空間を確保できているところでは、男性陣の表情が豊かであるとの印象を持っています。もっとも、この小白浜仮設の自治会長は、肝の据わった女性なのですが。

番屋で私がお話を伺ったのは、主に3人の元漁師です。見世四郎さん（みせ しろう、1931年生まれ）、川原強和さん（1935年生まれ）、及川吉助さん（1932年生まれ）。

H: このあたりの地震前後の状況はどういう感じですか。

M: 戦争当時、おれが小学生の頃は1年生は70人いたもんだが、今では1年生は4人だ。今の若い人には嫁の来てがな。俺の若い頃はモテてよかったもんだが、漁が不安定な職になってしまっ



た。この唐丹地区でもワカメ漁者は多いときは 300 人いたもんだが、地震後は 60 人、ホタテ漁業者は 200 人が 40 人になってしまった。今では 50 代、60 代の漁師でも独身が多い。

H: 戦争時代の様子を聞かせてください。

O: 釜石には高射砲台があったのだが、アメリカの飛行機には届かないし、飛行機の方が速かった。機銃掃射の射手が見えるぐらいの高さから撃ってきた。夜は B29 の爆撃があった。まず艦載機でこちらの様子見をして、そのあと沖合から釜石に艦砲射撃があった。機銃掃射の方はたとえば、人影を見れば撃ってくるという具合だった。俺は 16~17 歳頃に軍属として南方のパラオやフィリピンにマグロ漁師として行った。上の二人（長男と次男）は戦死した。

M: 俺は上の一人が戦死した。

O: バカな戦争はとんでもねえ。物資も何にもないのにさっさと降参しときゃよかったんだ。このあたりはみんな長男が亡くなっている。歳とって 80 年経ったら今度は津波。戦時中には小学生は 700 人いたが今は 60~70 人。人口が少なくなってもどらない。働き場所もないし、結婚もできない。

H: 津波の様子を聞かせてください。

O: 11m の防潮堤を過信しちまった。防潮堤があるから海岸近くに家を建てちまった。あんなもの

（防潮堤）いらねえ。防潮堤にだまされた。あんなもの作らずに、高台の山削って家建てればいいんだ。防潮堤なんてものはダメだ。

H: 復興の様子はどうですか。

M: 災害公営住宅の建設が全然進まない。資材や土地が値上がりするので、10 億の見積価格に対して、実際には 15 億かかることが判明して、業者がつかなくなってしまった。このままじゃ仮設からあの世に行くようなことになりそう。東京の建築家が、塩竈石でできた倉を貴重な文化遺産として公営住宅の真ん中に保存するなんていう凝ったかたちの設計をして、スペースのムダも出るし、儲からないしで、引き受ける業者がなくて、これで 1 年建設が遅れた。建築家は設計料はもらっているから、たいしたもの。戸建て再建をしようにも、オリンピックで資材価格が高騰して、補助金分もそれで消えてしまう。ここらあたりで、オリンピックの東京誘致決定をいいという人なんて一人もいない。災害公営住宅にしても、入居しても 5 年か 10 年しか生きられないんだから、そんなに立派なものはいらねえんだ。

釜石の事業で、大学の先生と一緒にやってやったことで、成功したためしがない。チョウザメの養殖、貴重魚のマツカワの養殖なんかも失敗だった。駅前にある鉄のカモメのモニュメントはその象徴だ。鉄で錆びた真っ黒なカモメなんてものは世の中にはいない。でも移設するとなればお金がかかるから、結局ほったらかしだ。15~6 年前に櫛ノ木平を開発して牧場を作ったのだが、牛肉輸入自由化で失敗した。しかも、櫛の木を伐って山が枯れて、その泥水が海に流れ込んでホタテが死んだ。釜石市が大学の先生と一緒にやってやったことは全部失敗だ。

H: 貴重なお話をありがとうございました。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 74

今月のテーマは、暑さ対策です！



- 1.いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
 - 2.まず、手と足を地面につけて、トンネルに風を通すように背中を上へ。しっぽも！
 - 3.次は、あおむけになって、手も足もしっぽも上げて、風を感じましょう。
 - 4.最後に、あおむけのまま、耳の横で手を地面につけましょう。お尻をあげて、足を延ばす。しっぽもあげてね。
 - 5.できましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 9月12日 神戸YMCA 専門学校(新神戸OPA2階) 19:00~20:30

8.5 ポーポキと一緒に平和を考えるWS 国際理解教育・開発教育研修会 JICA関西

8.6 ポーポキはヒロシマを忘れない！ シャドー&スカイプ 8:00 に生田川公園に集合！

8:15にダイイン。9:00からアメリカの反核活動家とスカイプ・トーク。

スカイプはYMCA専門学校(新神戸OPA2階) 209号室で行います。

8.26 ポーポキによるセクシュアリティWS 豊中市立第十四中学校教職員が対象。10:00~12:00

10.5 平和と健康のワークショップ 兵庫医療大学

ポーポキの友だちからの知らせ

アフガニスタン産レーズンの輸入販売(CODE)

*ぶどう畑再生支援プロジェクトにより、ぶどうの収穫量はみるみる増加しました。日本の皆さまにもこれをぜひ召し上がっていただきたい、もっとアフガニスタンのことを知っていただきたいという思いから、ミールバチャコットの農家がつくったレーズンを輸入し、熊本市の(特活)日本フェアトレード委員会のご協力で製品化・販売しています。収穫したぶどうを天日干しにした自然のままのやさしい甘みが好評です。経費を除いた収益はアフガニスタン支援に使わせていただきます。ご家庭用はもちろん、ギフトにもぜひお求め下さい。委託販売も受け付けています。

※詳しくは <http://code-jp.org/afghanistan/index.html>

沖縄の辺野古で埋め立てが始まった！抗議行動の船、平和丸の整備が必要！全国、全世界から平和を守り、辺野古の海を守るため募金に協力していただきたい。平和丸基金の口座は以下の通りです。すぐに必要な金額は 60 万円です。油圧式エンジンに付け替え(中古エンジン)、船外取り外しハシゴ、甲板の滑り止めゴムなどの購入資金です。ゆうちょ銀行17000-1378241 琉球銀行 大宮支店(普通口座)578229 ハイワマルキキンダイ ヒョウナカモトコウシン 〒905-0007 沖縄県名護市屋部 526 平和丸基金

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑤(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』『私のいち押し』 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて~人間と、ねこと、そして自分と~」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カテイング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

まりえにゃん

私にとってのポーポキとは？

それはポーポキとずっと一緒にいられることなのかなと思います。

「ポーポキとずっと一緒にいられること」がここで意味することは、ポーポキと一緒に身体で感じることを通して考えること。

私は長い学生生活を終え、今年のはじめから社会人になりました。NGOで働きたいとずっと思っていたのですが、「社会人経験がないと雇ってもらえないだろう」と思い、当初は民間の企業で働く予定でした。しかし、震災関係のイベントでたまたまある方々に出会って、念願のNGOで働くことになりました。

社会人になって、少し恐れていたこと、それはポーポキ忘れてしまわないか、ポーポキとの距離が遠くなってしまわないかということでした。

予想は少し当たっているように思います。社会人には社会人のスケジュールがあり、ルールがあります。これらの波にのって生きていくうちに、以前よりぼーっとする時間がなくなってしまいました。学生のときに木陰に座って、何も考えず風の音を感じたり、私だけの秘密の場所に行って世の中のすべてから隠れてみたりすることはなくなってしまいました。私はこのような時間が人間にとって、豊かな感情や感覚、新しいアイデアを育む大切な時間なのではいつも感じています。

しかし、社会人になって受けた印象は、多くの人が「いかに無駄なく生きていくのか」という点に力を注いで生きていることでした。ここで言う無駄とは、毎日の生活を送ることに最低限必要なものです。日本の都会の様子がいい例だと思います。たとえば三宮の町は一見無駄がなく、導線が最短でスムーズに見えます。今の場所から次の目的地まで行くのに、無駄なものを見たり聞いたり、嗅いだりする必要がありません。便利で暮らしやすいのだけれども、意識をしないと見えないものがたくさんあるように感じます。たとえば町の負の面も見えなくなる場合があります。

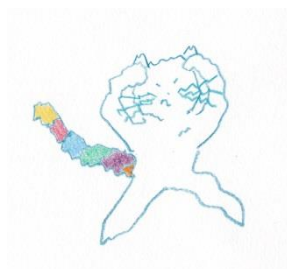
ここまで無駄無駄というと本当にいらぬもののようなイメージが付与されてしまいますが、すべてがいらぬものなののでしょうか。たとえば花のにおいを町の中で見つけることができるでしょうか。たとえば大きな空は町中から見えるのでしょうか。いつも通っている道の色、音、においを感じたことはありますか。このように人々が毎日を忙しく生きるようになったからというだけではなく、ときに整備の行き届いたまち全体が人の感覚を麻痺させるような環境を作り出しているときもあるのではないのでしょうか。

私はいつも月を見ながら帰るのが好きなのですが、先日ふと「最後に月を見ながら帰ったのはいつ

だろうか」と結局思い出せませんでした。そしてポーポキと少し疎遠になってしまったのではと心配になったのです。今日はポーポキと一緒に月を見ようと思っています。



神戸駅より、町がきれいになることはすてきだけど、見えないことや見えないものが増えてくるかしら？



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!